

エコのすすめ（暖房編）

12月に入り寒さが厳しくなる中、すでに暖房を使い始めた人もいるのではないだろうか。今回は、暖房のちょっとした知識やエコロジーな使い方をご紹介します。



●問合せ先
生活環境課環境係
内線152



①暖房は冷房よりも電気代がかかる

暖房も冷房も同じエアコンを使っているのに、電気代も同じぐらいと思われがちですが、実際は暖房の方が電気代がかかります。



例えば、夏に室温32℃の部屋を25℃に冷やす場合は、-7℃分の電力を消費しますが、冬に室温8℃の部屋を22℃まで暖かくする場合は、+14℃分もの電力を消費します。

一般的に冬の方が変動させる温度が大きいので、暖房の方が多くの電力を消費し、それに応じて電気代も増えることになります。

②暖房の仕組み

暖房は、外の空気を利用して部屋の中の空気を暖めています。外の空気の方が冷たいのに、どうやって部屋の中の空気を暖めるのでしょうか？

実は、空気はどんなに冷たくても熱エネルギーを含んでいます。まずエアコンの室外機が外の空気を吸い込んで熱エネルギーを抜き取り、それを部屋の中のエアコン（室内機）に送り込みます。そして室内機は、送られてきた熱エネルギーを部屋の中の空気に与えて、暖かい空気を作り出しているのです。

るのです。

室内機も室外機も電力で空気を循環させているので、フィルターが汚れていたり、室外機の周りに物を置いて風通しが悪くなったりしていると、それだけ多くの電力を消費するので注意しましょう。



エアコン（室内機）



エアコン（室外機）

③エアコンの風向板は下を向ける

暖かい空気は上へ上へと向かいます。そのため風向板が上を向いたままだと、天井付近が暖まるばかりで、足元は寒いままになります。風向板を下に向けることで、足元から部屋全体が暖まるようになります。

④カーテンやレースカーテンを閉める

暖まった部屋にとって、最大の敵はガラスです。ガラスはその薄さもあって、暖かい部屋から外へ、急速に熱エネルギーを逃がしてしまします。

それを防ぐために、カーテンやレースカーテンを閉め、ガラスと部屋の間に空気の層を作りましょう。空気は、ガラスに比べると熱の伝わりやすさが40分の1以下しかありません。そのため、カーテンを閉めることで、部屋の中の熱エネルギーを外に逃がしにくくしてくれ、それだけ暖房の効率も良くなります。